

6. パターン抽出シート インストラクション

準備 (ポイントコースは②から始めてください)。このシートは必要枚数分コピーして用います。

シート作成に先立ち、「2. 実例シート」を実例ごとに切り取り、実例カードを作ります。類似しているかどうかを基準に、実例カードをグループに分け、実例グループを作ります。

実例が1つだけのグループができてかまいません。1つの実例を複数のグループに入りたいときは、コピーして使います。グループが1つしかできない場合は②に進みます。実例グループ数と同数の「6. パターン抽出シート」が必要です。コピーし、シート中の2カ所の()に同一の整理番号を記入しておきます。

- ① 切り取った実例カードを、実例グループごとに、パターン抽出シートに貼付けます(ホチキスで留めたり、書き写したりしてもよい)。
- ② 実例に含まれている一般的関係性(物事の筋道)を見出し、要点を一文(パターンと呼びます)で表現します。実例グループごとに、グループに通底するパターンを探り、表現します。1例のみの場合は、その例に含まれるパターンを探り、表現します。複数のパターンが見出せる場合は、箇条書きにして並べます。1つの実例に無数のパターンを見出すことができますが、ある程度見出したら、終了します。
- ③ 実例グループ(1事例グループの場合はその1例)の特徴を、最もよく表現していると感じられるパターンを選びます。1パターンのみの場合は、それを書き写します。整理番号を記入します。
- ④ シート数が基準より多いときは、意味が類似しているシートを統合します。

パターン抽出シートに集められた実例グループをパターンクラスターと呼びます。クラスターとは「房」という意味です。1つのパターンクラスターは、フェルトセンス(意味感覚)*の1側面を表します。1つのフェルトセンスから、いくつでも側面が切り出せますが、このサイトでは、取り組んでいるコースに応じて基準を定めています。基準となる実例グループ数は下のとおりです。

シート数が基準を下回る場合はそのまま進めます。基準を上回る場合は、意味が類似しているシートを統合し、基準グループ数を下回るまで統合を繰り返します。統合しても基準を上回るときは、コースを変更します。15グループ以下にできない場合は、ラージコースに準じます。

統合したシート群ごとに、パターンを付け直します。各シートの③と②のパターンを参考にし、実例グループの特徴をよく表すパターンを付けます。

<コースごとの実例グループ数の基準>

- ポイントコース (1グループ)
- スピードコース (2グループ)
- 一般 スモールコース (2~4グループ)
- 一般 ミディアムコース (5~7グループ)
- 一般 ラージコース (8~15グループ)

*「ポイントコース2」「スピードコース2」の方へ
テーマとしている経験について感じる意味感覚(意味があるという感覚)を、「フェルトセンス」と呼びます。このサイトでは、「フェルトセンス」は、「テーマとしている経験のフェルトセンス」を指します。